

抜けるハコ

高知工科大学 工学部 社会システム工学科
1080471 高橋寛侑

背景

日々、刻々と変化していく町の中で時代に取り残されてしまった山がある。

高知県香南市三宝山 標高 213m

そこにはかつて三宝山スカイパークという遊園地が存在した。その遊園地の駐車場には西洋風の古城、シャトー三宝 と呼ばれた郷土資料館、他に飲食店などが併設され、近くに動物園もあったことから多くの来客者が訪れていた。

しかし、バブル期が過ぎ、遊園地は閉鎖、平成 15 年に最後まで残っていた飲食店が閉店してしまう。そして今では展示施設として使われていたシャトー三宝の建物が建っているだけである。

現況

平成 15 年に最後まで営業を続けていた飲食店も閉店し今ではシャトー三宝の建物がひっそりと山の頂上に佇んでいるだけである。アスファルトは所々ひび割れ、雑草は生い茂り、入口付近に設置された錆付いた案内板が当時のまま残されている。香南市のシンボルとも言えるこの山、ここから見える太平洋を望む絶景は、一瞬、時が経つのを忘れてしまうほど美しい。しかし、今では敷地は施錠され一般人は立ち入ることができない。そこで香南市や香南市商工会側もこの山が持つ良さを無駄にしたいけないと、新しい利用法を検討しているが、まだこれといって新しい案は決まっておらず、長い間、宝の持ち腐れ状態が続いている。

コンセプト

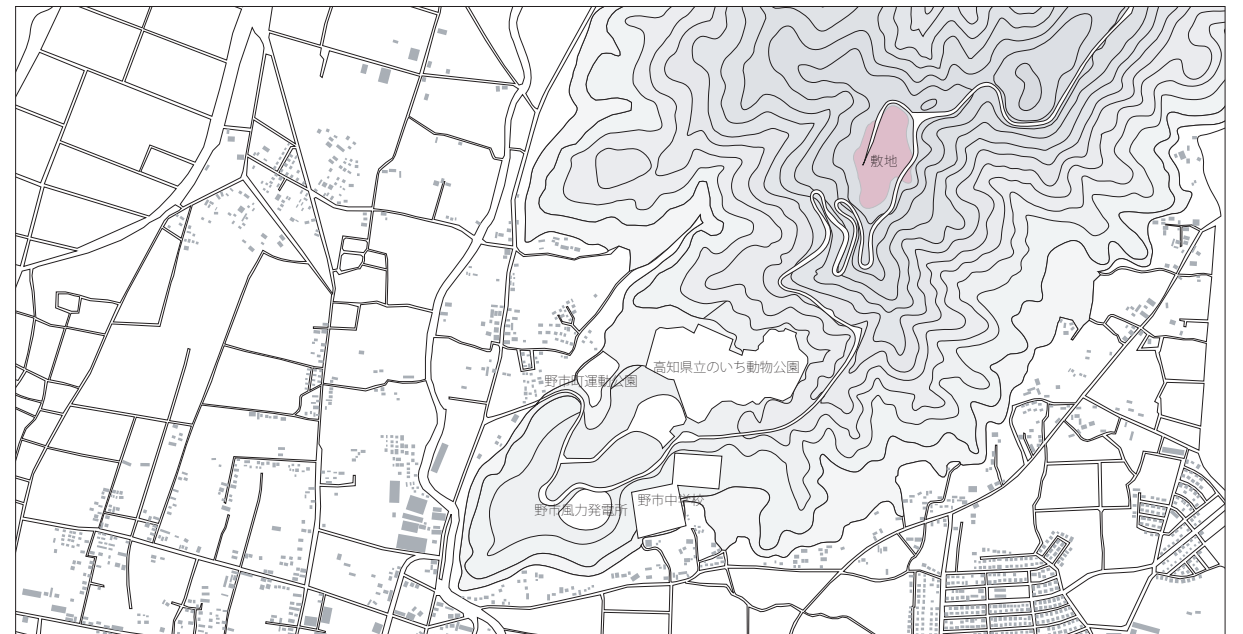
抜けるような海の青、広がる大地、流れ絶えず形をとどめぬ雲、どこか霊的な力をも醸し出すこの場所はその姿を変えることなく、静かにこの町を見守り、そして、絶景という魅力を隠し持ちながら人々の記憶の中に潜み佇んできた。

私は今回、この山の魅力を人々に再認識させるための美術館を提案する。

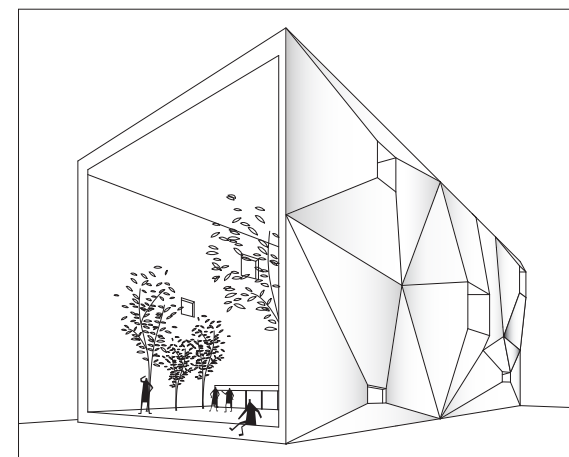
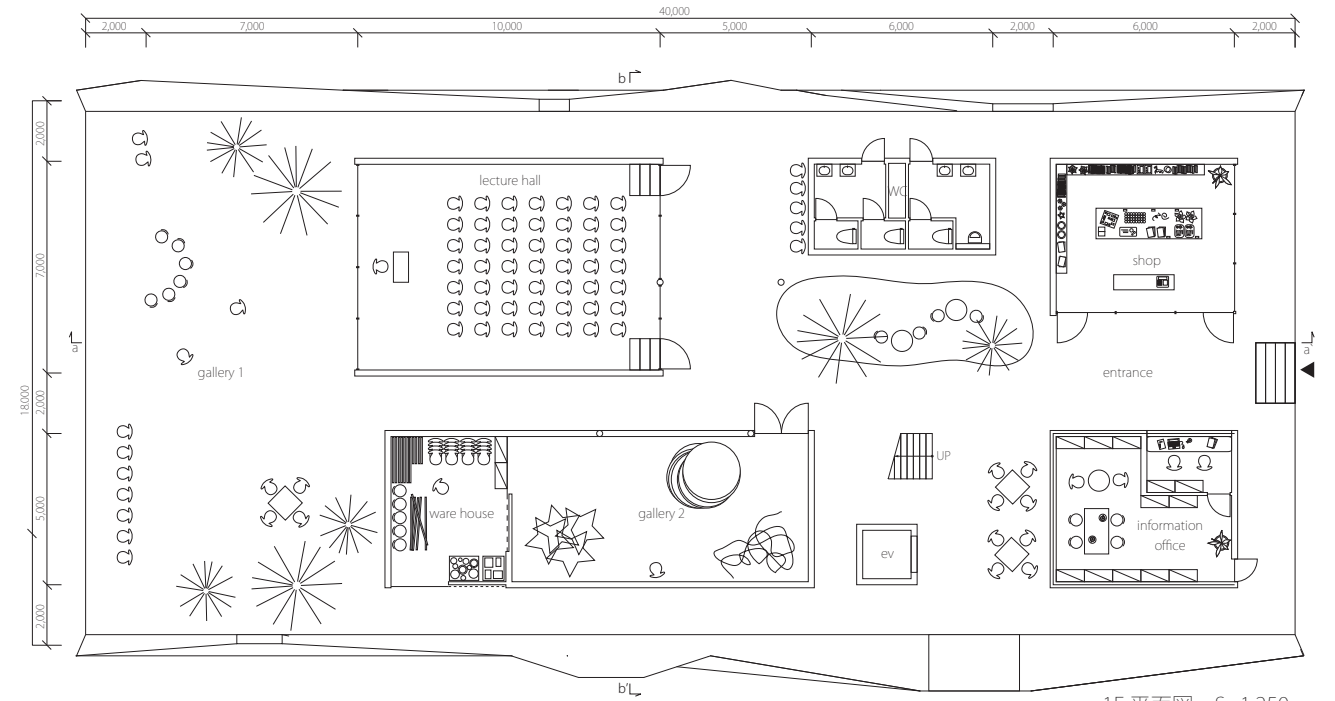
ここで風景は作品、作者は自然である。四季の移ろいの中で見せる自然の力強い作品たちは人々の五感を刺激し、再びこの地へ引きつけるものとなるだろう。そして、やがてこの地は町の新たなランドマークとしての強度を持ち、人々の記憶の中だけではなく、町の象徴として歴史の中に刻まれてゆく。

この美術館をただ景色を見せるだけの装置と思う人もいるかもしれない。

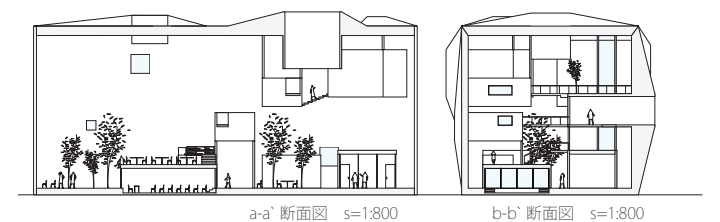
しかし、決して合理的とは言えないその装置が時に人々の心を動かすのも、また事実なのではないだろうか。



対象敷地平面図 S=1/20000

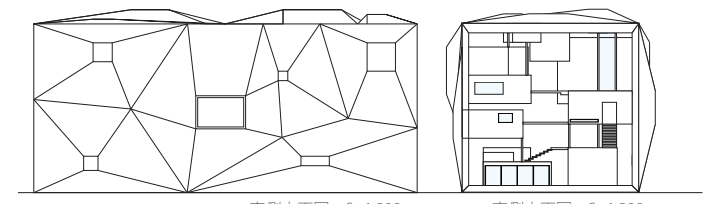


外観パース



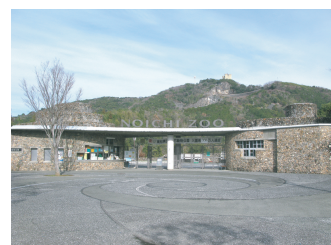
a-a' 断面図 s=1:800

b-b' 断面図 s=1:800



東側立面図 S=1:800

南側立面図 S=1:800



高知県立のいち動物公園



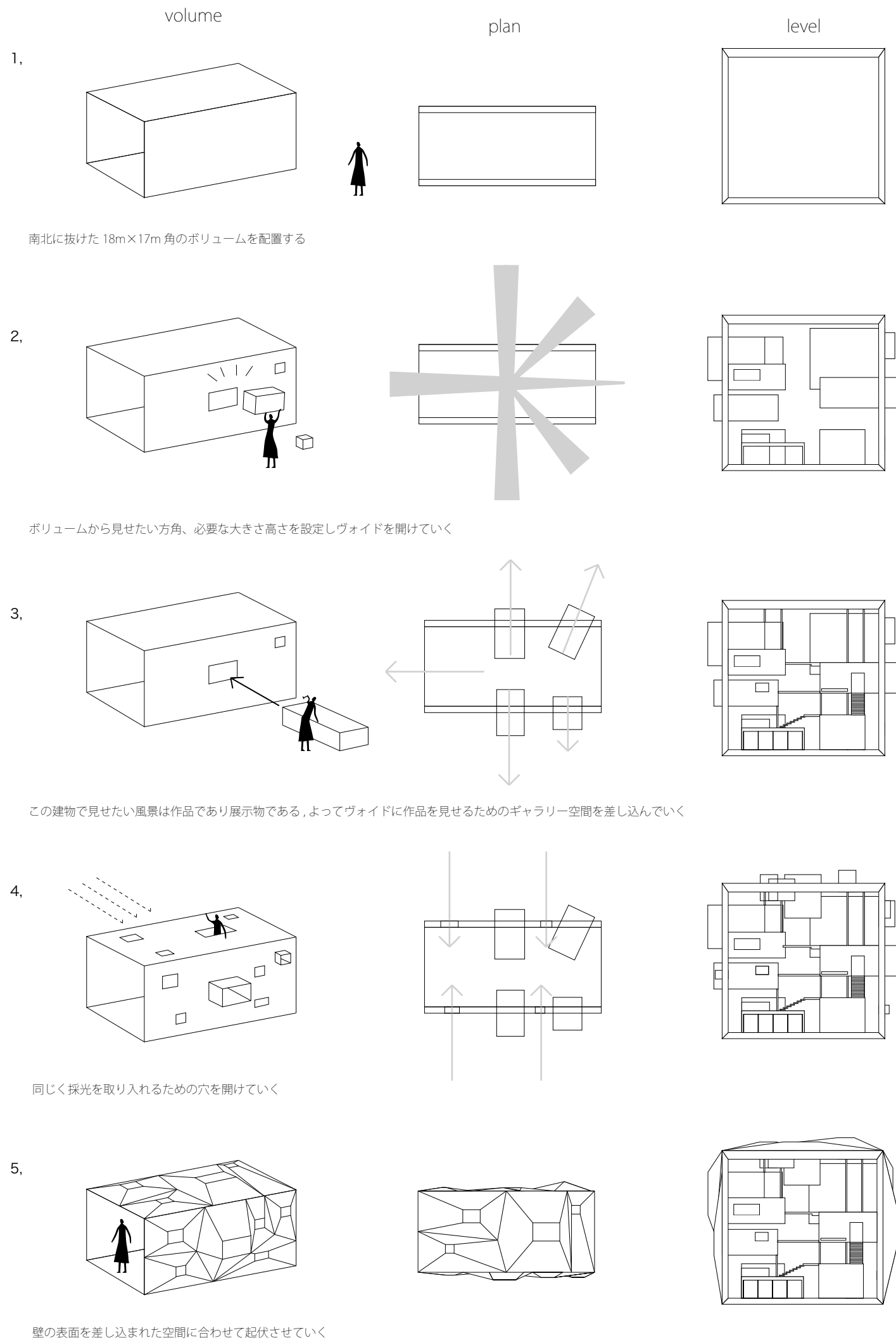
野市風力発電所



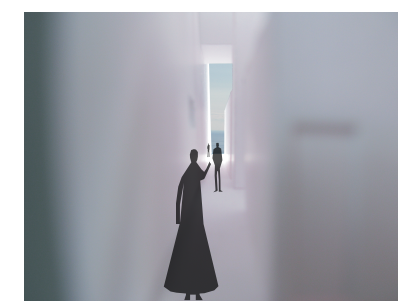
シャトー三宝



三宝山入り口



入り口から南を見る



南北に抜ける通路



ギャラリー 3 からギャラリー 4 へ抜ける



ギャラリー 1



中庭から上を見上げる



南から北を見る



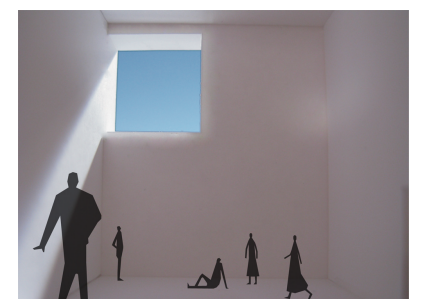
ギャラリー 3 からの風景



ギャラリー 4 からの風景



ギャラリー 5 からの風景



ギャラリー 6 からの風景